

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達スクール かすたねっと (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 3日		2025年 4月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名 (兄弟児を除く)	(回答者数) 24名 (兄弟児を除く)
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		2025年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援の知識、経験を有する職員が複数在籍している。	チーム支援として、支援経験の長い職員が療育内容の見直しやアドバイス、相談を行うことができる環境を作っております。また、定期的に支援内容を確認し、目標設定と振り返りを行う機会を設けています。	支援経験の長い職員による研修、アドバイス等はこれからも継続してまいります。また、後進の育成にも力をいれ、さらなる療育の質の向上、職員全体のレベルアップを図ってまいります。
2	日頃から保護者様と情報を共有し、お子様の状態に対して共通理解を図り、必要に応じて保護者様との家族支援を行い、保護者様、お子様の双方への支援を行うことが出来ている。	療育実施前には保護者様に最近のご様子をお伺いし、療育実施後には療育でのご様子を共有させていただき、支援の方向性の一致を図っております。お子様の状態や保護者様の悩み等、必要に応じて家族支援にて保護者様への支援を行っております。	環境の変化が大きい時期(行事・就学前)など、通常と異なる際は特に、保護者様と情報共有を密に行い、お子様の状態への共通認識を持つことが出来るよう取り組んでまいります。継続して、適宜保護者様との面談を行うなど、保護者様との情報共有および保護者様への支援の機会を設けてまいります。
3	お子様に合わせた環境設定やプログラムを行うことが出来る。	療育ではお子様の安心できる環境を整え、プログラムの提案を行っております。また、お子様の状態に合わせて安全地帯の設定や必要に応じて質・量の調整を行い、無理なくプログラムに参加できるようにしています。	お子様の状態に合わせた環境設定等、現在行っている取り組みを継続して行ってまいります。また、お子様の状態やプログラム内容に合わせて部屋内の環境調整、療育室の変更等柔軟に行っております。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援経験の長い職員と支援経験の短い職員間にて、支援スキルの差が大きい。	支援スキルについては実務の積み上げが必要のため、支援経験の浅い職員は支援経験の長い職員との差が顕著にあらわれます。	職員の日々の研鑽と共に、スーパーバイズ体制とOJTを充実させていきます。また地域と連携した外部研修も実地していきます。
2	保護者同士の交流が少ない。	保護者参観などの機会を設けてはおりますが、コロナ禍以降保護者様の交流の機会が少なくなっております。	保護者参観の頻度を増やしたり、少人数での保護者研修など保護者が参加したい形での交流の機会を設けていきます。
3	療育時の安全管理の徹底。	体を動かす療育場面では、巧技台や平均台の設置の際など、怪我の危険性がある場所がございました。角や床にはマットやスタップを設定するなど環境設定を行ってりましたが、不十分と思われる場面がありました。	小集団の療育では、お子様の人数が増えるため、動きの予測などが必要な場面が多くなります。そのため、シュミレーションでの安全性の再確認を行い、予防的な安全確保を図ってまいります。また、事業所ではヒヤリハットなど事故を防止するために日々安全管理に取り組んでまいります。